

年の修行後には、工人として独立したいと考えています。

宮本隊員(以下、宮本) 高校卒業まで熊本県で暮らした後、奈良県にある着物専門学校に進学しました。先に協力隊として着任していた2つ上の学校の先輩が、就職先紹介で学校に来た時に「新庄亀綾織(※2)のサンプル品を見せていただいて「私も織ってみたい」と思い、勢いで新庄に来ました。

現在は、江戸時代から続く新庄亀綾織の伝承や機織り技術を学びつつ、後輩隊員への指導も行っています。

※2 新庄亀綾織 新庄藩の城下で受け継がれてきた絹織物。きめ細やかで多彩な地紋である「斜文織(綾織)」という独特の織り方で、高度な機織技術を要する手織りの絹織物です。

——協力隊活動を通して感じていることを教えてください

富澤 大崎市ではデジタル市役所を進めていることから、高齢者向けにスマホ教室を開催していますが、インター



大崎市×山形県新庄市 地域おこし協力隊クロストーク

昨年2月に陸羽東線沿線自治体で、陸羽東線をテーマにした共同広報を実施したことをきっかけに、山形県新庄市と交流をしています。今回の共同広報のテーマは「地域おこし協力隊」です。
新庄市の地域おこし協力隊と本市の地域おこし協力隊が、それぞれの活動内容について語り合いました。

ネットやスマートフォンの使い方の下地が無い人だと、理解が追い付かないことがあります。アナログからデジタルへの時代の過渡期を感じています。

磯部 世代によってはデジタル機器を使えない人もいますよね。観光デジタルマップの実施に当たっては「使える人がいるか」はあまり気にしませんでした。利用者と運営者の双方の配慮は必要だと思います。

渡辺 私もSNSに投稿して、こけしを若い世代にアピールしていますが、その必要性について疑問をもたれることもあります。デジタルの活用によって、伝統工芸品の美しさや、受け継がれてきた伝統の技をより多くの方へ発信できる良さを、共感いただけるような活動を継続していきたいと考えています。

渡辺 宮本さんはどうですか？

宮本 デジタルとは関わりありませんが、織り作業は隊員がメインで行っているのが、帰郷された先輩隊員に教わりながら活動しています。新庄亀綾織は歴史的に、資金難で途絶えて…復活させて…を繰り返しているのので、「持続可能な事業継承の形」が必要だと思っています。

渡辺 そう考えると、協力隊としての「3年間」は、長いようで短いですね。

富澤 いかに地域の人とつながり、事業を興していくか、地域を盛り上げていけるかが問われますね。



——最後に、皆さんにメッセージをお願いします

宮本 着任3年目、あと数カ月で退任となります。今よりも広い工房に移転し、ショップも開店します。今後新庄亀綾織を守り、伝えていくために頑張りますので、ぜひ遊びに来て応援してください。

磯部 縁があり移り住んだ新庄をより良くしていくために、「新庄まつりだけ」と言われないような観光コンテンツづくりを進めていきたいです。今後地域のために活動していきますので、応援をよろしくお願いします。

富澤 演劇スキルを生かした心のケアや自身の魅力の再発見、高齢者と若者が交流する場の創出などに取り組んでいきたいと思っています。また、大崎市の自然を生かした心のデトックスなど、市内外の多くの人を巻き込んで魅力を伝えていきたいと思っています。

渡辺 こうやって県境を越えて交流することで、地域内外の視点で、互いのまちの良いところや課題などを見つめ直



——皆さんの着任の経緯と、現在の活動を教えてください

富澤隊員(以下、富澤) 出身は大崎市中、上京して演劇活動をしていました。新型コロナウイルス感染症の影響で活動を自粛し、就職を考えてホームペー

ジの制作について学びました。求職中に大崎市の地域おこし協力隊の募集情報を見つけ、Uターンという形で着任し、今年で3年目になりました。

主にデジタル・デバイド(※1)の解消に向けて、高齢者向けにスマートフォンスマートフォンの操作教室(以下、スマホ教室)などを企画・実施しています。また、大好きな演劇を生かして、地域に伝わる「化女沼」に由来する伝説を基にしたパフォーマンスに、地元の高校生と取り組んでいます。現在は、卒業後の起業に向けた準備を行っています。

※1 デジタル・デバイド 情報通信(一)技術を利用できる人と利用できない人との間に生じる情報格差

「大崎市地域おこし協力隊活動報告会」

問 政策課地方創生担当 ☎23-2129

地域おこし協力隊員が日頃の活動内容や地域に対してどのような思いを抱きながら任務に取り組んでいるのかなどを報告します。詳しくは、市ウェブサイトを確認してください。

日時 3月20日(木) 10時～正午

場所 市役所本庁舎1階市民交流エリア 屋内広場(パタ崎さん家)

申込 3月7日(金)まで申込フォームで申し込み

地域おこし協力隊は、「地域の宝」を守り、磨き上げるため、地域を活性化させたいという思いを持ちながら、日々活動しています。

今回、新庄市の地域おこし協力隊との意見交換の中で、自身の活動を振り返り、地域課題の共有や活動のヒントを得ることができました。この経験を生かして、地域に還元できるよう頑張っていきたいと思います。今後とも応援をお願いします。

磯部隊員(以下、磯部) 私は、妻が新庄市出身で、結婚を機に新庄に移住しました。ホテルマン時代に培ったプロモーション経験を観光に生かせると思い、昨年5月に着任しました。

昨年は、新庄まつりの時に山車やトイレが探しやすいように「観光デジタルマップ」を導入しました。これを活用したデジタルスタンプラリーを市内の参加店を周遊する「新庄まちなか漫画ミュージアム」で実施しました。今後は、さらに市内の掲載店舗を拡大し、観光に使いやすいデジタルマップに育てていきたいです。

渡辺隊員(以下、渡辺) 私とこけしの出会いは学生時代です。仙台や鳴子温泉に遊びに来たときに、お土産で買ったミニ鳴子こけしがとても愛らしくて、「ド」はまりました。その後、自分のやりたいことを見つめ直した時に「こけしだ」と思い、大崎市の地域おこし協力隊に応募しました。師匠にはまだまだだねと言われながらも優しく厳しく教えていただいています。

今年で2年目になりますが、残り1

